

# 地域課題としての 「外出支援」

もし自分たちが「運転できなくなったら…」と一緒に考えませんか？と京丹波町社協が地域住民を対象に3月18日(土)京丹波町役場本庁にて集会を開催されました。高い関心があり約50名が参加され、クローバーからも林晃平事務局長が講師として赴き、外出支援の現状などを語りました。

## ▶外出支援事業の現状

現在外出支援サービスの登録者数は京丹波町全体で572人にのぼります。そのうち178名がクローバーで登録されています。

医療機関への受診送迎が主ですが、町内だけでなく、より専門的な治療を求め、町外の医療機関の受診も近年増加してきています。特にご利用が多い京都中部総合医療センターや、明治国際医療大学付属病院などは片道15~30km弱を走ります。時には京都市内の医療機関まで送迎することもあり、月平均2300kmもの距離を送迎しています。

それを限られた車両と7名の運転員(全員が他の業務と兼務)でまかなっており、時間が重なる対応に苦慮し、利用者さんに時間調整をお願いすることも度々あります。

## 外出支援月別利用実績 (2022年度)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
利用者実数(人)	67	65	67	62	69	73	64	70	72	81	60	63	813
利用回数(回)	232	262	257	227	227	252	208	218	255	204	185	232	2759
走行距離(km)	2,267	2,452	2,656	2,207	1,965	2,860	2,464	2,369	2,663	2,187	1,945	2,403	28,441

※3月は29日までの実績



## ▶多様なニーズも対応が難しく…

現行の制度では買物等での利用が月1回(京丹波町内に限る)となっており、一度買物で使ってしまうと、その月は美容院や、銀行等への移動では利用ができません。また病院へのお見舞いや、友人宅への訪問・届け物など制度内では応えられないニーズも多く、通院等の必要最低限の外出支援は行っても、日常生活を豊かにするところまでは至っていません。

## ▶制度の見直しも今後必要

竹野地区でのカーシェアリングなど独自の移動支援が行われている地域もありますが、運転員の高齢化や、昨今の燃油費高騰による経費の増加など課題も多く、制度の見直しも含め、今後の外出支援のあり方や、その他移動支援サービスの検討も、京丹波町全体で考えていかなければなりません。

### NPO 法人クローバー・サービス

京都府船井郡京丹波町橋爪楡山 53  
■TEL (0771)88-5014 / ■FAX (0771)88-5017  
■e-mail: info@cloverservice.or.jp  
■ホームページ http://www.cloverservice.or.jp

### クローバー・デイサービスセンター

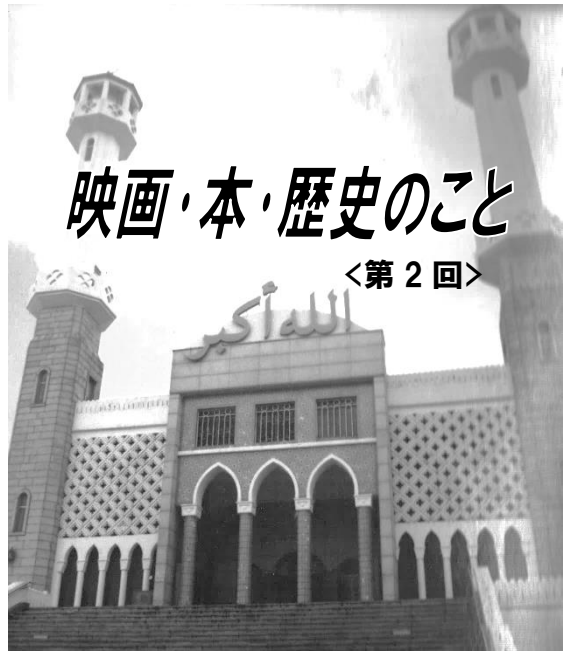
京都府船井郡京丹波町橋爪楡山 41-1  
■TEL & FAX (0771)88-0138  
■e-mail: day@cloverservice.or.jp



facebook QR

# 映画・本・歴史のこと

<第2回>



有田誠(ありたまこと) 京丹波町在住の映画愛好家  
写真はソウル梨泰院にあるモスク(筆者撮影)

## 小津と黒澤

八年前、二十周年を迎えたプサン映画祭が、「アジア映画一〇〇」を選出した。ベストワンは小津安二郎の『東京物語』(一九五三)、二位と六位に黒澤明の『羅



小津安二郎(1903~1963)

生門』(一九五〇)と『七人の侍』(一九五四)が選ばれた。イギリス映画協会は十一年前、月刊『サイト&サウンド』誌上で、世界映画史上のベスト一〇〇を選んだ。ベストワンは『東京物語』であった。

た。ロンドンの映画館で『東京物語』を観たとき、隣席のパンクの兄ちゃんが泣きじゃくっていた。例えば台湾の侯孝賢は、小津へのオマージュとして、東京で『珈琲時光』(二〇〇三)を監督した。ドイツのヴェイム・ヴェンダースは、小津についての記録映画『東京物語』(一九八五)を撮った。フィンランドのアキ・カウリスマキの映画には、赤いポットなどの備品が必ず画面の中に配置される。小津の『彼岸花』(一九五八)や『秋刀魚の味』(一九五二)の色彩や美術を見較べれば、その影響は明らかである。

黒澤明の場合は、その父性主義的資質のゆえか、米国の監督たちに影響を与えた。例えばサム・ペキンパー。『ワイルドバンチ』(一九六九)、『ゲッタウェイ』(一九七三)など、すさまじい殺戮場面の、しかし、美しいハイスピード撮影は、彼独特の演出スタイルである。それらは『七人の侍』で宮口虎二が居合で人を切る場面の模倣だろう。ジョージ・ルーカスの『スターウォーズ』(一九七七年)は『隠し砦の三悪人』(一九五八)の宇宙版だ。ジョン・ミリアスの『風とライオン』(一九七

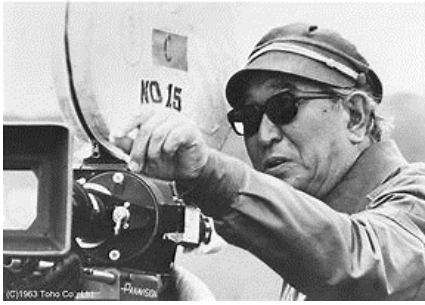


『東京物語』の笠智衆、左は原節子

五)のシヨーン・コネリーは、『隠し砦』の三船敏郎そのままである。イタリヤのセルジオ・レオーネは、『用心棒』(一九六〇)をそっくり『荒野の用心棒』(一九六四)として盗用した。これで大スターになったクリント・イーストウッドは、後に監督した『許されざる者』(一九九二)をレオーネに捧げている。『影武者』(一九八〇)の製作費は、ステイブ・スピルバーグ、フランシス・コッポラ、ルーカスが調達した。『デルスウザー』(一九七五)はソ連の、『乱』(一九八五)はフランスの製作である。『夢』(一九九〇)にはマーチン・スコセッシがゴッホ役で出演した。

## 人真似をすればいい

人間は先達の才能に同



黒澤明(1910~1998)

化、到達することを願ひ、ひたすら引用、模倣をつづける。まずは、その型にはまろうとするのである。これが成長ということであろう。

八十年代以降の教育現場は、やれ個性だ、自己実現だと子供たちを振り回しつづけた。自分から師を見つけ、型にはまる流れから体得する成熟を妨害ばかりしてきた。

高校二年生だったわたしは、ジャン・ピエール・メルヴィルの『サムライ』

(一九六七)を観た。アラン・ドロンの寡黙な殺し屋がわたしに憑依した。学校で突然しゃべらなくなり、それはひと月ぐらいつづいた。みんなにバカにされたものである。大学一年のときには太宰治をまとめ読みして、津軽へと旅立った。野坂昭如を一〇〇冊近く読んだわたしの文体は、質はともかく、彼そつくりになった。イラストを描けば、水木しげる、つげ義春になる。

自立とは、助けてくれる人を自分で見つけることだと思ふ。一人ですべてをやるうとしたり、できると勘違いするのは、単なる孤立である。国家が人々を分断支配するため持ち出したのが、誤用としての個性、自助、自己責任である。一



『七人の侍』から、最前面が三船敏郎、右端が宮口精二

人ひとりを未熟で孤立した袋小路に追い込んで、目の先の権力安泰を図る。何が自己啓発だ。

もっと映画を観て、自分の頭で考えればいい。お互いが助け合う世の中を目指して。

**『イスラム精肉店』**

一九七七年初めて韓国を旅行し、板門店に行った。

境界の北側の警備は、チエコスロヴァキアとポーランドの軍隊だった。朝鮮戦争では、韓国側としてトルコやギリシャも参戦している。トルコ軍は言葉に不慣れなことから、味方の韓国軍二百名を捕虜にしたり、命令なしに逃げたりしたらしい。もっとも、これはトルコ軍よりも、GHQから現場に至る米軍上層部の無能ゆえの逸話らしい。

『イスラム精肉店』(新泉社22年)は戦後、ソウルに居残ったムスリムのくせに豚肉を売るトルコ人のハサンおじさんと隣人たちの物語。悪態をつきながら、間借り人のギリシヤ人残留兵ヤモスおじさんにタダ飯を提供する食堂の

アンナおばさん、そして孤児院からハサンおじさんに貰われてきた「僕」を中心とした心とからだの傷の物語である。「僕」はまだ子供だが、鎖骨の辺りに銃創らしきものがある。しかし、記憶はない(一九八〇年の光州事件で全斗煥の軍隊に撃たれたと推測できる)。

作者はソン・ホンギユ(一九七五年生まれ)。小説家とは、言葉の意味を本質でつかまえ、これほどまでに独自の世界を構築できるのかと、感じ入ってしまう。水平線の向こうにまで開いた共助の物語である。

韓国文学が次々と翻訳、出版されるのはありがたしい。その翻訳者の多くが女性であることに気づいておくべきだろう。



## デイのヒノキ風呂を新調!

デイのお風呂が老朽化してきたため、地元の大工さんの助力を得て、浴槽2据えを新調しました。これまでと同じく、ヒノキを使用した温かみのある木製のお風呂で、「ヒノキのよい匂いがするわ〜♪」と利用者さんも爽やかな香りを楽しみながら、ゆったりと入浴されています。



窓越しには桜の花が咲き誇っています



## 〈賛助会員〉

(有)あさひ堂  
(株)一谷住宅  
イン・ザ・ルーム 亀岡店  
上段税理士事務所  
(株)高木設備  
たにやま鍼灸接骨院  
田端輪業  
(有)土佐寿司  
(有)永田損害保険事務所  
(有)西村テレビ  
三木歯科医院  
みづほ電工  
理容ちどり

(五十音順)

## 編集後記

普段野球を見ない方たちも今回のWBC（ワールド・ベースボール・クラシック）には熱視線を送られたのではないのでしょうか？▼私ばかりの桑田・清原のKKコンビにあこがれた世代、それ以来の野球小僧で、今回の日本代表メンバーも大谷・ダルビッシュ・村上など、日本を代表する豪華な面々で、その戦いぶりにわくわくしていました▼特に準決勝のメキシコ戦、春分の日でお休みだったので、朝からその試合を見るのができ、試合経過に一喜一憂、半ばあきらめていたところでのあの九回裏の大逆転劇だったので鳥肌がたつほど感動をしました

▼残念ながら決勝戦はアルタイムで視聴することはできなかったですが、アメリカの土地で一流のメジャーリーガーたちを擁するアメリカ相手に勝って優勝した侍ジャパンに賛辞を送りたいと思います▼WBCのうらでは春の選抜高校野球もはじまっており、日本代表メンバーの活躍を見て、その戦いぶりにあこがれを抱く野球少年たちもたくさんいると思います。今回MVPに輝いた大谷選手もかつてはそんな野球少年でしたが、「憧れはすて、敵だと思って戦おう！」そんな大谷選手の言葉も印象に残りました。

〈編集子〉